

I. 私たちが青銅の洗盤の意義を理解することは、極めて重要です:

A. 青銅の洗盤は、キリストの死から出てくる命を与える霊の洗う力を予表します:

テトス3:5 彼は私たちを救ってくださいました。それは、私たちが行なった義のわざによってではなく、彼のあわれみによってであり、再生の洗いと聖霊の更新を通してです。

1. 洗盤を祭壇の後に配置することが表徴するのは、洗盤の洗う力が、祭壇における神の裁きから出て来るといことです。出30:18「あなたはまた、洗うために、青銅の洗盤と青銅の台を作らなければならない。そしてそれを集会の天幕と祭壇の間に置いて、その中に水を入れなければならない。

2. 十字架につけられたキリストは、祭壇(十字架)における神の完全な裁きを経過した後、復活の中へと入り、私たちを洗う命を与える霊と成りました。Iコリント15:45 そこで、「最初の人、アダムは、生きた魂と成った」と書かれています。最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

3. 洗盤の寸法が記載されていないことは、命を与える霊が計り知れず、無限であることを表徴します。

B. 青銅は神の義なる裁きを表徴します:

出26:37 そのとばりのために、アカシア材の五本の柱を作り、それを金で覆わなければならない。その鉤(かぎ)は金であり、それらのために青銅の台座を五つ鑄て作らなければならない。

1. 洗盤を作るのに用いられた青銅は、集会の天幕の入り口で仕え奉仕する女たちの鏡から来ました。これは青銅の洗盤が、人を映し暴露することができる鏡であったことを暗示します。

出38:8 また、彼は青銅の洗盤と青銅の台を、集会の天幕の入り口で仕え奉仕する女たちの鏡で作った。

2. これが示しているのは、キリストが十字架上で受けた裁きには私たちの汚れを暴露する力があり、私たちが洗われる必要があることを暴露する力があるということです。

C. 洗盤は祭壇と集会の天幕の間に置かれて、祭壇の働きを継続し、人を幕屋へと入らせました。

D. 洗盤の位置は祭壇の後ろにありましたが、洗盤の機能は祭壇の機能の前にありました。出30:20 彼らは集会の天幕に入って行くとき、水で洗わなければならない。それは彼らが死なないためである。また祭壇に近づいて務めをし、エホバへの火によるささげ物を焼いて煙にすると、21 手と足を洗わなければならない。それは彼らが死なないためである。これは、彼と彼の子孫が代々にわたって守るべき永遠のおきてである。

E. 洗盤の中へと入れられた水は、命を与える霊の洗いを表徴します。

F. 洗盤の洗いが表徴するのは、キリストの血によって罪を洗い去ることではなく、地的な事物との接触から来る汚れを、命を与える霊によって洗い去ることです。

G. 祭司は奉仕する前に、死を免れるために、洗盤で洗うことが要求されました。これが示しているのは、もし私たちが、命を与える霊によって自分の地的な汚れを洗い去ることをしないで神に仕えようとするなら、霊的な死に遭うということです。

H. 青銅の洗盤は、神の住まいの機能のため、幕屋の機能のためでした：

出30:19 アロンとその子たちは、そこから水を取って手と足を洗わなければならない。

1. 洗盤がないなら、幕屋あるいは外庭におけるものはすべて機能することができませんでした。
2. もし祭司が洗盤で洗わなかったなら、幕屋が機能する方法はありませんでした。
3. もし洗盤が外庭から取り除かれたなら、幕屋と外庭における他のあらゆるものが全部そろっていても、これらのものが機能することはできなかつたでしょう。
4. 外庭と幕屋における祭司の奉仕は、彼らが洗盤で洗うことにかかっていた。

II. 私たちは洗盤、すなわち命を与える霊の洗いを経験する必要があります：

ヨハネ13:5 それから、たらいに水を注ぎ入れ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。**6** 彼はシモン・ペテロの所に来られた。ペテロは彼に言った、「主よ、あなたが私の足を洗われるのですか？」。**14** それで、主であり先生である私が、あなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。

エペソ5:26 それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためであり、**27** またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖(きよ)くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです。

A. 洗盤は、私たちが自分の地的な汚れを洗い去り、清くされる場所です：

十字架の贖いは神の御前での私たちの罪の問題を対処します。この対処は血の洗いによって完成されます。しかしながら、私たちの経験によれば、私たちは地的な汚れが依然として残っていることを知っています。私たちの思いには汚れた思想や不適切な観念があり、私たちの行動は地的な汚れによって汚染されています。これらはすべて再生の洗いと聖霊の更新を必要とします。それは贖いと全く関係がなく、罪の問題を対処するという目的のためではありません。再生の洗いと聖霊の更新は私たちから内側の汚れを取り除くためです。…罪の問題は祭壇で対処され、汚れの問題は洗盤で対処されます。

私たちは神に近づくことを願い、自分が罪定めされており、汚れていると感じるときはいつでも、血の洗いによって私たちの罪定めを対処し、聖霊の更新によって私たちから汚れを取り除くことを必要とします。私たちは特定の事柄に関して祈り求めるために10分を必要とするかもしれませんが、祈り求める前に、血の清めと私たちの内なる存在の更新を尋ね求めるために20分を必要とするかもしれません。人は祭壇と洗盤で時間を費やさずに、聖所と至聖所に入ることはできません。もしある人が祭壇と洗盤を経過するのに多くの時間を費やさずに、彼は聖所と至聖所の経験をあまり得ることはできません。霊的な経験を尋ね求める人は、祭壇と洗盤を経過しなければなりません。

1. 私たちは神聖な命を持っていますが、なおも地上で墮落した肉の中に生きており、地的な接触を通してしばしば汚れます。私たちは地的な接触を避けることはできません。

今日クリスチャンは罪について不注意であるだけでなく、またこの世的なものについてとても不注意です。彼らはそれほど邪悪で悪くないかもしれませんが、とてもこの世的です。

私たちは毎日、洗盤に来て、聖霊によって地的でこの世的な接触から洗い去られているでしょうか？ あなたはデパートに行くとき、どのように感じるでしょうか？ あなたはしばらく買い物をした後、自分がとても聖く天的であると感じるでしょうか？ 地的な接触は私たちを汚しますが、それは罪深いものによるのではなく、この世的なものによります。

2. 私たちが真の祭司となって、祭司職を実行しようとするなら、地的な接触からのすべての汚れが洗い去られなければなりません：

a. 私たち信者は、新約の祭司として、キリストと彼の十字架によって神に仕えることができる前に、地的な事物や事柄との接触から来る汚れを洗い去らなければなりません。

b. もし私たちが、地的な接触から来る汚れの中にとどまっているなら、神に仕えることもできず、祈ることもできず、集会で機能することもできません。

c. 私たちは毎日、洗盤に来て、聖霊によって地的な接触から洗われる必要があります。

d. この洗いは血によるのではなく、霊的な水、すなわち聖霊によります。

B. ヨハネ第13章1節から17節に、主が弟子たちの足を洗うことによって描写されている洗盤の経験があります：

ヨハネ13:4 晩餐の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って、腰に巻かれた。5 それから、たらいに水を注ぎ入れ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。6 彼はシモン・ペテロの所に来られた。ペテロは彼に言った、「主よ、あなたが私の足を洗われるのですか？」。7 イエスは彼に答えて言われた、「私のしていることは、今あなたにはわからないが、後でわかるようになる」。8 ペテロは彼に、「私の足を、いつまでも決して洗わないでください」と言った。イエスは彼に答えられた、「私があなただを洗わないなら、あなたは私と何の関係もなくなる」。

14 それで、主であり先生である私が、あなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。15 私があなたがたに行なったように、あなたがたも行なうようにと、私はあなたがたに模範を与えたのである。

信者たちが幕屋の中へと入るために、キリストは場所を用意し、道を切り開く必要がなおありました。このことに関して、第13章は極めて重要です。なぜなら、それは境界線であり、転換点であるからです。

旧約の予表によれば、全焼のささげ物の祭壇と幕屋との間に洗盤がありました。洗盤は祭司たちが手と足を洗う所でした。祭壇に来て、幕屋に入る用意ができた者たちは、洗盤に来て洗われる必要がありました。

1. 再生された人は彼らの霊においては、神の中に、また天上にいますが、彼らの体においては、なおも肉の中で生き、地上で歩いています：
 - a. 彼らは地的な事物との接触を通して、しばしば汚れます。
 - b. 地的な接触からの汚れは交わりを妨げるので、彼らは洗盤の中の水によって洗われる必要があります。
2. 5節の水が表徴するのは聖霊(テトス3:5)、言葉(エペソ5:26、ヨハネ15:3)、命です(ヨハネ19:34)。

ヨハネ15:3 私があなたがたに語った言のゆえに、あなたがたはすでに清いのである。

19:34 しかし、兵卒の一人が彼の脇(わき)を槍(やり)で突き刺すと、直ちに血と水が流れ出た。

汚れは罪深いこととは異なります。罪深いことは一つのことであり、汚れていることは別のことです。私たちは絶対に罪がなくても、非常に汚れているかもしれません。あるいは何も間違っていないけれども、私たちはただ地的なものとの接触のゆえに汚れています。私たちは、自分がなおも体の中にあり、なおも地上を歩いていることを認識する必要があります。

私たちは肉の中で生き、この汚れた地上を歩いて蓄積したすべての汚れを、その霊、生ける御言、内なる命によって洗い去っていただく必要があります。

3. ヨハネ第13章の足洗いは、霊的な意義を持つしるしです。霊的な足洗いの意義は、それが主との、また互いの喜ばしい交わりを維持するためであるということです。

I ヨハネ1:3 私たちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも伝えます。それは、あなたがたも私たちと交わりを持つためです。私たちの交わりとは、御父との、また御子イエス・キリストとの交わりのことです。¹しかし、神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩くなら、私たちは互いに交わりを持ち、御子イエスの血が、すべての罪から私たちを清めます。

主イエスが弟子たちの足を洗ったのは、主との交わり、また相互の交わりの中で彼らを維持するためです。こういうわけで、主はペテロに言われました、「わたしがあなただけを洗わないなら、あなたはわたしと何の関係もなくなる」(8節)。古代にユダヤ人はサンダルを履きました。また彼らの道路は汚れていたもので、彼らの足は容易に汚れました。彼らが宴席に来て、もし食卓に着き、足を伸ばしたなら、汚れとにおいが確かに交わりを妨げたでしょう。主は彼の弟子たちの足を洗って、彼らを極みまで愛していることを示し、また同じことを互いに愛の中で行なうよう命じました。

今日、この世は汚れており、私たち聖徒たちは容易に汚染されます。私たちは、主との、また互いの喜ばしい交わりを維持するために、霊的な足洗いを必要とします。それは、洗う聖霊、洗う言葉、洗う命をもって、主によって彼の愛の中で、また互いに愛の中で行なわれます。私たちが神聖な命の交わりの中に生きるために、このことは絶対に必要です。

4. 主が弟子たちの足を洗うことは、極みまで愛する愛でした。ですから、互いの足を洗い合うことは兄弟愛です。

ヨハネ13:34 私は新しい戒めをあなたがたに与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 あなたがたが互いに愛し合っているなら、これによって、すべての人は、あなたがたが私の弟子であることを知るようになる」。

互いに愛し合うという戒めは、新約における唯一の戒めです。この戒めは、ヨハネによる福音書第13章における足洗いについての章で初めて与えられました、「私は新しい戒めをあなたがたに与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」。互いの足を洗うという戒めは、互いに愛し合うという戒めと関係があります。今日クリスチャンは、兄弟愛について大いに語りますが、兄弟愛は足洗いにおいて表現されることを認識している人は多くありません。もし私たちが足洗いの実際を持っていないなら、実は兄弟愛を持っていないのです。私たちは互いに愛し合っているなら、互いの足を洗う必要があります。足洗いがなければ、兄弟愛はありません。主イエスは弟子たちを極みまで愛しました。この愛は、彼が彼らの足を洗うことにおいて見られます。

C. テトス第3章5節は、再生の洗いと聖霊の更新について語っています：

テトス3:5 彼は私たちを救ってくださいました。それは、私たちが行なった義のわざによってではなく、彼のあわれみによってであり、再生の洗いと聖霊の更新を通してです。

1. 「洗い」と訳されたギリシャ語は、文字どおりには「洗盤」を意味し、それは汚れを洗い去るためです。
2. 5節の「再生」のギリシャ語は、一つの状態から他の状態への変化を指しています。再び生まれることは、この変化を開始することです。

テトスへの手紙第3章5節における再生は、地位の変化、物事の新しい状態のことです。一人の人が再び生まれるとき、神聖な命が彼の中へと入ります。そのとき、地位の変化があり、物事の状態は新しくなります。テトスへの手紙第3章5節は、変化した地位の洗いと、新しくなった物事の状態について語っています。再び生まれることは、一つの状態から他の状態への変化を開始することです。

テトスへの手紙第3章5節の「洗い」のギリシャ語は、文字どおりには「洗盤」です。「洗い」、すなわち「言葉の中の水の洗い」を指す同じ言葉が、エペソ人への手紙第5章26節で用いられています。旧約の幕屋の洗盤は、汚れを洗い去るためのものでした。再生の洗いは、消極的な面で、私たちの天然の命の古いものを清め去る洗盤です。…私たちの天然の命のどんなものも古いのです。私たちの天然の命のこれらの古いものは、変化した地位と、物事の新しい状態についての洗うこと、すなわち、洗盤によって清め去られます。

3. 再生の洗いは、私たちが再び生まれることで開始し、聖霊の更新をもって継続します。これは神の新創造の過程、私たちを新しい人とする過程です：

エペソ4:23 そして、あなたがたの思いの霊の中で新しくされ、24 また、あの実際の義と聖の中で、神にしたがって創造された、新しい人を着たのです。

a. この洗いは、神聖な命による一種の修復、作り直し、改修です。

b. 再生の洗いは、私たちの古い人の古い性質のすべてのものを清め去り、聖霊の更新は、新しいもの(新しい人の神聖な本質)を私たちの存在の中へと分け与えます。

c. この過程の中で、私たちは古い状態から完全に新しい状態へと入り、旧創造から新創造へと入ります。Ⅱコリント5:17 ですから、だれでもキリストの中にあるなら、その人は新創造です。古いものは過ぎ去りました。見よ、それらは新しくなりました。

ガラテヤ6:15 割礼も無割礼も重要ではありません。重要なのはただ新創造です。

d. 再生の洗いと聖霊の更新はいずれも私たちの全生涯にわたって私たちの中で絶えず働いており、ついには新創造の完成に至ります(テトス3:5)。

D. 昇天したキリストは彼の天の務めにおいて、「言葉の中の水の洗いによって」召会を清めつつあります：エペソ5:26 それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためであり、

1. 26節の「洗い」のギリシャ語は、文字どおりには「洗盤」です：

a. ギリシャ語で定冠詞がこの言葉の前に使われており、「あの」洗盤、すなわち、すべてのユダヤ人に知られていた洗盤を指しています。

b. 旧約で祭司はその洗盤を用いて、彼らの地的な汚れを洗い去りました(出30:18-21)。今やこの洗盤、すなわち水の洗いは、私たちを汚れから洗います。

出30:20 彼らは集会の天幕に入っていくとき、水で洗わなければならない。それは彼らが死なないためである。また祭壇に近づいて務めをし、エホバへの火によるささげ物を焼いて煙にすると、

2. エペソ第5章26節の水は、神の流れる命を指しており、それは流れる水によって予表されます。

ヨハネ7:38 わたしの中へと信じる者は、聖書が言っているように、その人の最も内なる所から、生ける水の川々が流れ出る」。

3. 贖う血は私たちの罪を洗い去りますが、命の水は、しみやしわのような、私たちの古い人の天然の命の傷を洗い去ります。

4. 私たちが今そのような洗う過程にいるのは、キリストが「しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖(きよ)くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげる」ためです。

経験：学生生活編

① ヨハネ13:5 それから、たらいに水を注ぎ入れ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。8 ペテロは彼に、「私の足を、いつまでも決して洗わないでください」と言った。イエスは彼に答えられた、「私があなたを洗わないなら、あなたは私と何の関係もなくなる」。

FN「足を洗う」: 私たちは神聖な命を持ち、召会となっていますが、なおも地上で墮落した肉の中に生きています。私たちは地的な接触を通してしばしば汚れます。これは避けられません。なぜなら、私たちは地的な接触を避けることができないからです。私たちの足は私たちの体の肢体であり、地に触れています。私たちの足で地に触れることによって、私たちの足は確かに汚れます。その結果として、私たちには足洗いが必要です。

② エペソ5:26 それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためであり、27 またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです。

FN「言葉の中の水の洗い」: この水の洗いは、キリストの贖う血の洗いとは異なります。贖う血は、私たちの罪を洗い去りますが、命の水は、私たちの古い人の天然の命の傷、すなわち「しみやしわや、そのようなもの」を洗い去ります。主は召会を分離し、聖化するとき、まずご自身の血で私たちの罪を洗い去り、次にご自身の命で私たちの天然の傷を洗い去ります。

この「言葉」を指すギリシャ語は、即時的な言葉を意味します。命を与える霊としての内住のキリストは、即時的な、現在の、生ける言葉を常に語って、古いものを新陳代謝的に洗い去り、それを新しいものに置き換えて、内側で造り変えます。命の水の洗いによる清めは、キリストの言葉の中にあります。これは、キリストの言葉の中に、命の水があることを示します。これは、祭壇と幕屋の間に置かれた洗盤によって予表されます。

③ 日常生活で自然に足が汚れる: キャンパスライフにおいて、友人と会話することは楽しく、また大切なことですが、それは地上の事柄です。また、通学時に自然に目に入る駅の構内の看板や電車の中の広告、スマホで見るニュースや宣伝などに、あなたは常に接しています。これらの事柄は日常生活におけるこの世であり、罪深くなくても地上の事柄であって、聖別されていないので、いつの間にかあなたを汚します。日常生活の活動の中で、自然にあなたの足は汚れ、悪臭を放つようになります。この汚れた足を洗うために、言葉の中の水の洗いが必要です。

④ み言葉を祈り読みし、言葉の中の水によって洗われる: 「言葉の中の水の洗い」の言葉は、即時的な言葉です。即時的な言葉は聖書の恒常的な言葉を祈り読みすることから来ます。神は聖書の言葉を通して、あなたの日常生活の中の様々な状況の中であなたに語ります。神の即時的な言葉を得るために、必ず毎朝兄弟姉妹と共にみ言葉を祈り読みしてください。主は、あなたが祈り読みしている間にみ言葉を通してあなたに語りかけ、また日常生活で、朝祈り読みした言葉を通して、あなたに語りかけます。この語りかけが即時的な言葉であり、そこに、あなたの足を洗う水が含まれています。あなたが足を洗わなければ、汚れから清められ、悪臭から逃れることはできません。その結果、主との親密な交わりや、集会に参加して主の豊かさを享受することができなくなってしまいます。主と兄弟姉妹との交わりを維持するために、あなたは足を洗わなければなりません。

589 聖書を読む—主の言葉で養われる

1. 「ひとはパンだけでなく、かみのことばで生きる」、いのちのかてとし、つねにことば食べる。
2. ひとにはからだがあり、たましいとれいがある；霊はさい深の部分、かみを受ける部ぶん。
3. にくたいにはぶっしつのしょくもつがひつ要なよう；霊も天のしょくもつ、かみのことばひつ要。
4. 主よ、なれはれい、ことば、なれを完全にあらわす；わが霊をかつ用し、ことば通し、霊受ける。
5. ながことば得るために、目をもちい、ことば読み、おもいで理かいし、霊をもちい吸収する。
6. 霊のなかでことば食べ、最深の部分に取り込む；霊でいのり読みし、全存ざい、浸透される。
7. おもいで取ったことば、それはおも荷となるが、霊のなかで取れば、霊、いのち、平安となる。
8. わがれいをくん練して、主に触れることねがう；ことばのやしない、ご自身に触れさせる。
9. 主よ、ことばを読むたび、いかに霊を訓練するか、主よ、われにおしえ、われをやしないませ。

1. “活着不是单靠食物，乃靠神口所出的话；” 因此须将神话当作生命之粮，时常吃下。
2. 我们受造非仅身体，乃是身体与魂与灵；灵是里面最深部分，为着接受神作供应。
3. 正如我们身体需要属地物质食物营养，灵也需要神的话语，作它属天生命食粮。
4. 主，你是灵，且藉你话将你自己完全表明；我今需要运用我灵，藉着你话接受你灵。
5. 因此，我们接受你话，非仅用眼读其字句，并用心思领会其意，更须用灵将其吸取。
6. 须在灵里吃你的话，将其接到最深部分；运用我灵祷读你话，你就供应，浸透全人。
7. 你话留在我的心思，仅是知识，变作重担；若被接受到我灵里，就变灵与生命、平安。
8. 当我真肯运用我灵，接受你话并接触你，我就得着你话喂养，深处摸着你的自己。
9. 哦主，教我每读你话，就肯操练运用我灵，好使我灵得到喂养，你就作我生命供应。

814 Study Of The Word - Feeding On The Word

- 1 "Man shall not live by bread alone,
But by each word which doth proceed
From God's own mouth"; these we must eat
And let them be our life indeed.
- 2 Not just a body we were made,
But body, soul, and spirit too;
The inmost part the spirit is
To contact God and Him pursue.
- 3 Just as we need the earthly food
Our body's need to satisfy,
We need the food for spirit too-
Thyself, Thy Word, its true supply.
- 4 Thou art the Spirit, and Thy Word
Thy very Self expressed doth make;
Thus, it is Spirit as Thyself,
Which by our spirit we must take.
- 5 Thus, to receive Thy Word is not
To read it only with our eyes
And understand it in our mind,
But 'tis the spirit's exercise.